

## 令和5年度MDASHプログラム 自己点検・評価について

自己点検・評価の視点	評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<b>学内からの視点</b>		
プログラムの履修・修得状況	極めて良好	本教育プログラムは必修科目を中心に構成されており、学生の履修・修得状況は極めて良好である。教員は、学生の履修状況、講義における各回の出欠管理、成績の確認、単位修得状況をLiveCampusコミュニケーションポータルシステム(教務情報システム)により、随時、確認できる。また、同システムにより、履修学生も、自身の出欠状況、単位取得状況、各種要件の確認が出来る。また、各授業の各回における内容の確認や進捗状況については、eラーニングプラットフォームMoodleシステム(九州工業大学学習支援サービス)を通して行うことが出来、全学的な体制が整っている点でも極めて良好である。
学修成果	極めて良好	全学的に整備された学修自己評価システムでは、学生の履修した科目から設定された目標に対する達成度を可視化するとともに、学生生活を客観的に記録することで学生の学修意識と自己管理能力を高め、将来像を明確化することを実現している。同システムでは、履修学生は各学期における成績平均、修得単位数、GPA等を確認することができる。さらに、学生自身が立てた学期における目標と学修達成度評価に対して、定期的に担当指導教員がフィードバックを返すことで学修成果の把握・確認を行っている。令和5年度のプログラム履修学生の同システム利用率は79.0%に達しており、学修成果を視覚的に確認することも出来、極めて良好である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	極めて良好	学修自己評価システムを利用して、当該授業が開講されたクォータ末または学期末に授業アンケートを受講者全員に対して実施している。アンケートでは、授業内容の理解度や授業の到達目標に対する達成度、満足度等を調査している。アンケート結果は、各授業担当教員にフィードバックされ、これにより学生の内容の理解度を把握している。また小テストや演習、定期試験やレポートを実施することでも、学生の理解度を把握することができる。令和5年度の授業アンケートでは、約82.3%の学生が授業内容を理解したと回答しており、極めて良好である。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	極めて良好	個々の授業に対して授業アンケートを実施し、その結果に基づく教員の表彰制度がある。本教育プログラムを構成する授業科目が選ばれた場合は、本教育プログラムのHPで公表している。授業アンケート結果および結果公表HPを通じ、学生は優れた履修科目を確認でき、学生の履修へのモチベーション向上につながっている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	極めて良好	本教育プログラムは、学部・学科の必修科目を含むなど、卒業要件を満たせばプログラム修了要件を満たすような構成になっているため、いずれの学部でも履修率が100%となっている。
<b>学外からの視点</b>		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	極めて良好	令和5年度末時点の本教育プログラム修了者数は、872人であった。修了者の進路について、全学組織であるキャリア支援センターと、工学部における戸畑キャリア支援室、情報工学部における飯塚キャリア支援室が連携して、全卒業生の進路の把握ができる体制である。また、各学部の各学科には就職担当教員と事務員を配備し、全卒業生の就職企業との面談等や企業アンケートにより、修了生の活躍状況と評価を把握できる。修了者のうち、6割が大学院に進学し、4割が企業に就職しており、就職した修了者の約7割が、製造業または情報通信業に就職している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	極めて良好	教育プログラムの改善・進化のため、教育高度化本部のもとに民間企業の人事部門の方や企業執行部を経験された方、また企業経営者の方からなる産学連携教育審議会を設置している。本審議会では、本学が取り組む教育内容・教育改革等に対して、産業界からの意見を採り入れており、極めて良好である。令和5年度の産学連携教育審議会では、学内における本教育プログラムの取組、特に産業界や地域との連携や波及効果について説明し、高評価を得ている。本学における数理・データサイエンス・AI教育においては、リテラシーレベルや応用基礎レベルの教育に加えて、エキスパートレベルの教育の取り組みを期待しているという産業界からの意見があり、今後のカリキュラム等の検討の参考とする。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	極めて良好	工学部では「建設社会工学演習」「機械知能工学入門」「電気電子工学序論」「応用化学入門」「マテリアル工学入門」を、情報工学部では「情報工学概論」の入門・概論科目を開講し、履修学生の専門分野と数理・データサイエンス・AIとの関連や学ぶことの意義を教授している。さらには、AIやDS技術を駆使して活躍する卒業生や企業の方による講演会を開催することにより、学ぶことの楽しさや意義を理解する機会を提供している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	極めて良好	産業界から期待される数理・データサイエンス・AI教育の内容・水準については、上述の産学連携教育審議会からの要望事項を取り入れることにより維持することに加え、北部九州地区を中心とした企業や自治体との協働活動を通じて、教育内容・水準の維持・向上を行っている。各クォータ末、各学期末に実施している授業アンケートにおいては、授業の進度、使用したテキストや資料など分かりやすさ、担当教員の教え方の工夫などについて質問をしており、これらの結果を考慮して授業内容を改善し「分かりやすい」授業とすることに努めており、極めて良好である。